

## 4月10日（月） その4 私はゴミのポイ捨てをしたことがない！

教育研究所に来て、久しぶりに外ぼうきを握りしめています。何かとても懐かしいような気持ちです。朝から作業着を着て頑張っている皆さんを見て、とても頼もしく思います。構内の掃き掃除だけではなく、多くの種類の花々が咲き乱れているのも、広域行政組合の皆さんの努力があればこそ！だと感じました。先日の所長講話（90分）では、そのことに感謝して、意図的に構内に咲いている花々を数多くお見せしました。渡名喜島や久米島だけにあるめずらしい「カワラナデシコ」の花もありますね。清楚な白い花です。

さて、私は60年間ゴミのポイ捨てをしたことがありません。幼稚園以前のことは、よく覚えていないのですが、ポイ捨てするモノがない時代だったので（笑）、たぶん一度もないと思います。

私のふるさと「渡名喜島」の集落の中には、舗装された道路はありません。フェリーの発着する港の周辺や集落の外側には、舗装された道路が少しありますが、集落の中はすべて昔ながらの砂の道です。昨年だったか、渡名喜島には県道が一つだけあると、新聞に報じられていました。どれくらいの長さだと思いませんか？25メートルだそうです。沖縄で一番短い県道だそうです。

渡名喜小中には、昔から続いているとてもすばらしい行事があります。それは100年くらい前の大正時代から続いている「朝起き会」です。「水上運動会」と並んで、渡名喜小中の伝統的な行事となっています。

朝起き会は、私が小・中学生の頃は児童生徒が400人近くいたので、完全に子ども達の自治的な行事でした。私が5才くらいの時に渡名喜に電気が引かれましたが、24時間送電ではありませんでした。夕方から夜の11時過ぎまでの間しか電気が使えませんでした。だから、学校にはヤンマーの発電機があり、それを発動させてスピーカーから音楽を流すのです。それを聞いて子ども達がぞろぞろと学校に集まってくるのです。夏も冬も6時30分から、年間を通して毎日ラジオ体操をしていました。

その後、家に帰って集落内の道路の掃除をするのです。渡名喜の集落はフクギが多く、その葉っぱがたくさん落ちています。それを毎日掃除をするのです。私たちの班は100メートルくらいの道路を担当しました。大雨の時以外は、多少の小雨の時にも毎日、掃き掃除をやっていました。砂道ですから、ほうきの目がくっきりと残ります。

幼い頃から毎日やっていると、雨が降っていても道の掃除をやりたくてうずうずしました。ちょうどジョギングを毎日やっている人が、多少の小雨でも走りたがるのと同じような気持ちだったのでしょう。

生活習慣が身につくということとは、「毎日やらずにはいられない。」という状態にまで高めることだと思います。「早起き」、「歯磨き」、「読書」、「勉強」と、幼い頃から訓練をして身につけさせる必要があります。最初はいやいやながらも、習慣化ができると、自分から進んでやるようになります。小・中・高校生までで身につけたことは、生涯やり続けるものです。高校卒業までに、そのようなよい習慣をたくさん身につけてほしいものです。

「基本は歩くこと」、「ご飯が炊けて、味噌汁・野菜チャンプルーが作れる。」「普段着が洗濯できて、干して、たためる。」これらのことは、島尻地区のすべての子どもたちに身につけて欲しい生活習慣ですね。

## 平成29年4月11日（火）その5 離島でもネットで注文、ドローンで宅配

昨日は小・中学校の入学式でした。皆さんはすでに、「研究と修養」の半年間がスタートしていますが、地区内の幼・小・中でも、いよいよ平成29年度が本格的にスタートしました。

さて、金曜日の90分講話のなかでドローンの話をしました。ドローンというと、4つや8つのプロペラのついた「マルチコプター」と呼ばれるモノをイメージしますが、それも含めて「無人飛行機」という意味だそうです。元々の意味は「雄蜂」を表す英語で、飛ぶときのブーンという音が、雄蜂の羽の音に似ていることから、命名されたそうです。最初は大人が遊ぶぜいたくなラジコンくらいのイメージでしたが、そうではなくなってきましたね。

ドローンは「航空法」という法律で、操縦者や監視者が「目に見える範囲で飛ばす」ことが、義務づけられているそうです。国土交通省は、2018年までに操縦者や監視者から見えない場所でも飛ばせるよう、許可基準を作る方針を固めたそうです。スポーツや物流、農業、災害救出、警備、マスメディアなど、その可能性はまだ未知数で、今後ますますその活用が増えていくだろうと予想できるからです。

ドローンを宅配に活用することが現実味を帯びてきました。そうすると、離島や過疎地域でも、インターネットなどで注文すると素早く商品が届けられて、「買い出し」でわざわざ本島などに出かける必要もなくなるかも知れません。そのことを考えると、新採用の頃の自分を思いだしていました。つい37年前の話ですが、隔世の感がします。

私が採用された昭和55年（1980年）頃は、まだ初任者研修がない時代だったので、「離島で採用」という人も多かったです。私は「竹富町立船浮中学校」という沖縄の中でも1・2を争うへき地で採用されました。舟浮集落の人口は約40人で、中学生は最初の年が4人、次の年から1人でしたね。

舟浮は、西表島の中にあるのですが、他の集落からの道路がないのです。だから「白浜」というところからモーターボートをチャーターして渡りました。今は定期船が就航していますが、あの頃はそれでもありませんでした。電気、水道、テレビ・ラジオなど、おそらく皆さんが想像できないような世界でしょう。私が赴任する一年前に、やっと電話が完全自動ダイヤル化されたんですよ。スマホをお使いの皆さま、**「完全自動ダイヤル化」**って、意味分かりますう〜？

時々モーターボートをチャーターして「食料の買い出し」に行く職員もいましたが、私は出張などで石垣島に出たときに買い出しをするようにして、出来るだけ海の幸・山の幸を食べるように努めました。もちろん、自分で取りに行くんですよ。魚、貝、海藻、タケノコ、オオタニワタリの新芽（フチピーと呼んでいた）、イノシシ（猟師さんについて行った）などなど…。

ドローンは、災害などの緊急時に薬や食料を届けたり、災害地で空から至近距離で被害者を捜したりすることもできる。インターネットが、離島や山間部の生活を大きく変えたように、ドローンも私たちの身近なものになる近未来が見えるような気がします。皆さんが校長になって離島に勤務する方もいるかと思います。その頃には、歓迎会の料理を那覇のホテルからドローンで取り寄せるなんてことができているかも知れませんね。

## 平成29年4月12日（水）その6 育てていただいた恩返し

先日の挨拶回りの時だったか、比嘉指導主事が「これまで多くの方々にお世話になって育てていただき、無事に退職を迎えることができた。ご恩返しのつもりで、この仕事を引き受けた。」という趣旨のことをお話ししていましたね。

幼稚園や保育園の先生方や保育士はほとんど研修の機会がありません。そのため上原所長（10～12代）の肝煎りで、幼稚園・こども園関係の職員の研修会がたくさん企画されています。幼稚園教諭等の研修会がこんなに充実しているのは、島尻教育研究所が研修を一手に引き受けている島尻地区だけです。比嘉指導主事には、早速忙しくなると思いますが、島尻地区の先生方のため・子どもたちのために、よろしく願いいたします。

人は一人では生きられません。私たちが毎日食べている食料一つをとってみても、自分で生産したものはほとんどないはず。無人島に漂着したロビンソン・クルーソーのように、全くの自給自足で一人で生きられる人はいません。人は助け合って、生きていかねばならないのです。

教育基本法にある教育の目的は「人格の完成」ですが、「平和的な国家及び社会の形成者」とも書いてあります。平たくいえば「自分の人生を素晴らしいものにする」と、「自分のことだけじゃなく、世のため人のために、役に立つ人間になること」だと思います。

でもまずは自分のことが優先です。例えば、自分や家族が明日食べるものが何もない状態で、他人への思いやりの心など持てません。マザーテレサやシュバイツァーのような生き方は、なかなか私たち凡人には真似ができませんね。

幸い皆さん方は、沖縄の平均的な県民所得よりも高い給料をいただいています。衣食住は事足りているはず。でも今は、自分自身のこと、子育てや家族のことで精一杯だという方が多いと思います。「いずれ自分を育ててくれた社会に恩返しをする」という気持ちを、比嘉指導主事のように「その時」が来るまで、心の片隅に刻み込んでほしいと思います。

私も比嘉指導主事と似たような気持ちで、「所長」職を引き受けました。小さい声で言いますが、私たち非常勤の給料は、微々たるもので…半分ボランティアなんですよ！（笑）

まあ腰痛はありましたが、仕事を休むことなく、病気もせず無事に定年退職を迎えることができました。トートーメーの親（ウヤ）ファーフジに感謝をしつつ、私を育ててくれた社会に恩返しをしていきたいと思っています。「人材を以て資源と為す」で、後輩の人材育成のために微力を尽くすことが、私の使命だと考えています。やる気や意欲を高めるための講話を多くの方に聞いていただくのが、私が積み上げてきた「よさ」を生かした「恩返し」だと思っています。

そういえば、私は比嘉先生を若い頃から知っています。私が糸満中学に勤務していた30年ほど前に近くの糸満幼稚園に勤めていました。それだけではありません。皆さんが知らない「秘密」があるのです。実は夫婦なのです。…あっ！すみません。原稿を一部読み飛ばしてしまいました。

実は、私の妹と由美子先生の弟が夫婦なのです。じゃんじゃん！